

## 第三十八回入学式 式辞

待ちわびた春が到来しました。この佳き日に、PTA会長〇〇〇〇様をはじめ、御来賓の皆様、並びに新入生の保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに埼玉県立大宮光陵高等学校第三十八回入学式を、盛大に挙行できますことは、関係者一同、大きな喜びであるとともに、新たな希望と期待を感じております。ご臨席をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可いたしました356名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生、教職員一同、心から皆さんを歓迎いたします。また、保護者様におかれましても、お子様のご入学、誠におめでとうございます。学校を代表して、心からお喜び申し上げます。これから三年間、本校教職員一同お子様の成長を支えてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

本校は、昭和六十一年の開校以来、今年度創立三十八年目を迎え、この間1万2千名を超える卒業生を世に送り出してきました。本日入学された新入生の皆さんが、三年生になるときに四十周年という節目を迎えます。その節目に向かって、皆さんが躍進していくことを期待しています。

さて皆さんは、新型コロナによる混乱の中、中学時代を過ごしました。世の中は少し終息の方向に向かっていますが、この混乱は、まさに「予測のつかない社会」でした。「予測の付かない社会」においては、様々な事に柔軟に対応する力と、新たなものを創造していく力の大切さを実感させられました。新たなものを創造していくのは若い力です。その力を育む教育の責任の重さを強く感じています。現在も混乱と不安な状況は続いています。それでも私たちは歩み続けなければなりません。本校の校歌には「未知なる花よ、世界を飾れ」という言葉があります。この言葉には希望と期待が込められています。新入生の皆さん。皆さんの「未知なる花」を咲かせ、明日の社会を創造していく力を、ともに育んでいきましょう。

さて、皆さんに、校長として二つのことをお話したいと思います。

一つ目は、まず大宮光陵生らしくなるということです。皆さんはつい先日まで中学では最上級生でした。しかし、今日から一番下級生です。中学4年生では困ります。高校は中学と違うということは頭ではわかっているでしょう。では、どうやって高校生になるのか。何かを身に付けるためには順番が必要です。まずは、光陵生としての「型」を学んでください。言い換えると光陵生としての「基礎基本」を身につけてください。授業はもちろん、本校の教育目標にそって皆さんに求める事すべてです。まずそれをしっかりと身につけてください。そして「型」を身に付けたら、それを基に、いろいろなことに挑戦し、時には「型」を破り、新たなものを創り上げてほしいと思います。そこから自ら走り出す力、つまり自立の力を身に付けてください。

二つ目は、「常に希望を持ち、自分に負けず、自分を見失わない」ということです。生きていくうえで一番大切なのは、常に希望を持つことです。しかし、希望には、困難という言葉が背中合わせにあります。困難にぶつかったとき、人は自分の弱さを痛感します。ですが、希望に向き合っている自分も、困難にぶつかっている自分も、同じ自分です。今の自分がどんなに弱く、いやだなと思う自分であっても、逃げずに立ち向かわなければなりません。ところで、どんな人にも必ず「良いところ」があります。今の自分に負けたら、その「良いところ」に気づくことができません。「自分に負けない」というのは、「良いところ」を見つけ、希望に向かって歩んでいくということなのです。また自分の「良いところ」に気づけないこともあります。だから「仲間」が必要なのです。良き友人をたくさん作り、互いに今ある自分たちに負けずに、「良いところ」を認めあい、ともに歩んでいく。そのような学園環境を共に創ってほしいと思います。

最後に、保護者の皆様にお願ひしたいことがございます。

『子育て四訓』をご存じでしょうか。ご存じの方もいるかもしれませんが、このような言葉です。

「乳児（赤子）はしっかり肌を離すな」「幼児は肌を離せ、手を離すな」「少年・少女は手を離せ、目を離すな」そして「青年時代は目を離せ、心を離すな。」です。この三年間でお子様は「自主自立」を目指します。

お願ひというのは「お子様を信じて、見守ってください」ということです。昨年法律が改正され、お子様は、在校中に成人となります。これから三年間、自主自律のために、悩み、苦しむことがあると思います。しかし、お子様は自力で乗り越えていかなければいけません。時には手助けも必要なときがあるとは思いますが、お子様を信じて、成長を見守ってほしいと思います。

私どもも、お子様の成長、自立のために全力を尽くしてまいります。どうぞ、ご一緒に、本校三年間のお子様の成長を楽しんでいきましょう。

結びに、ご来賓の皆様並びにご列席の皆様のみますご健勝をご祈念申し上げるとともに、今後とも本校教育活動へのご指導、ご鞭撻をお願ひ申し上げ、式辞といたします。

令和五年四月十日 埼玉県立大宮光陵高等学校長 小川 慎